

# 鶴田留美子

ピアノリサイタル'20

9月12日(土)

サントリーホール(ブルーローズ)  
18:00開演(17:30開場)

ピアノ・ソロとアンサンブル  
Piano Solo & Ensemble



館市正克(ヴァイオリン I)



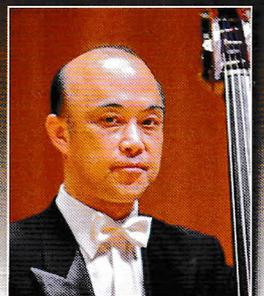
服部奈々(ヴァイオリン II)



古川原 裕仁(ヴィオラ)



林 一公(チェロ)



樋口 誠(コントラバス)

## 〈ピアノ独奏 Piano Solo〉

モーツァルト W.A.Mozart

アダージョ 口短調 K.540

Adagio h-moll K.540

「ああ、ママに言うわ」による12の変奏曲

(キラキラ星変奏曲)ハ長調 K.265

12 Variationen über "Ah, vous dirai-je, Maman" C-dur K.265

ショパン F.Chopin

マズルカ 第30~32番 作品50-1~3

Mazurkas op.50-1~3

スケルツォ 第2番 変口短調 作品31

Scherzo b-moll op.31

## 〈ピアノと弦楽五重奏 Piano & String Quintet〉

バッハ J.S.Bach

コラール「主よ、人の望みの喜びよ」BWV147

Chorale "Jesus, bleibet mein Freude" BWV147

ショパン F.Chopin

ピアノ協奏曲 第2番 へ短調 作品21

Piano Concerto II f-moll op.21

PIANO RECITAL  
RUMIKO TSURUTA

¥5,000 (全席自由) ¥3,000 学生

ムジカ・コミュニタス

TEL&FAX 042-468-7578

後援



ポーランド広報文化センター  
KNSZYTUŁ POLSKI TORUŃ

## Message

サントリーホールでの年1回のピアノリサイタルも、1990年以来、すでに四半世紀余を皆様方と過ごして参りました。近年は、ピアノ独奏に加えて共演者と一緒に演奏する楽しさを覚え、昨年は2台のピアノのための作品をお聴きいただきました。今回は、私が1979年ポーランド・ショパンアカデミーに留学する直前に、オーケストラ(荒谷俊治指揮、新日本フィルハーモニー)と協演しましたショパンのピアノ協奏曲第2番へ短調を再演したいと思います。

近年の音楽界では、ショパンのピアノ協奏曲の演奏についてさまざまな取り組みがなされ、オーケストラとの協演ではなく弦楽アンサンブルによる室内楽としての演奏も注目されています。ショパンがポーランドからウィーンへ旅立つ直前に作曲された2曲のピアノ協奏曲は、楽譜出版の際に室内楽として演奏する便宜が施されていたこともあり、室内楽としての魅力が見直されています。室内楽版にはいくつかの形態がありますが、今回は弦楽奏者5名の方々をお招きして、「ピアノと弦楽五重奏」によってお届けいたします。ショパンの楽曲に接する新たな魅力が加わればと思いつつ、楽しんでいただければ幸いです。

鶴田留美子



鶴田 留美子 (ピアノ)

Rumiko TSURUTA Piano

山梨県に生まれる。武蔵野音楽大学卒業後、1979年ポーランド・ショパンアカデミー大学院に政府給費生として入学。80年ヴィオッティ国際コンクールでディプロマ受賞。ポーランド各地でリサイタル。83年帰国後、東京他各地でリサイタル。90年以降は東京において、ショパンを中心としたプログラムで毎年リサイタル。新日フィル、東響とも協演。また、ポーランドショパン協会等の招きにより訪泊し、ショパンの生家、ワルシャワのワジェンキ公園、ブスコ音楽祭他でリサイタル。日本ピアノ教育連盟、ショパンコンクールin Asia、栃木県ピアノコンクール等の審査員を務める。これまで堀内かく、野呂愛子、國分郁子、長與恵美子、小川富美子、徳川愛子、バルバラ・ヘッセ=ブコフスカの各氏に師事。日本ピアノ教育連盟会員、フォーラム・ポーランド会員。聖徳大学教授を経て、後進の指導にあたっている。



館市 正克

(ヴァイオリン I)

Masakatsu TATEICHI  
Violin I

東京音楽大学付属高校を経て同大学卒業。読売新人演奏会に出演。81年東京交響楽団に入団、首席奏者。84年読売日本交響楽団に入団、現在エルダー楽員。94年アフィニス文化財団の海外研修員として、ロンドンに留学。ヴァイオリンを相見美恵、海野義雄、久保陽子、E.グリエンベルグOBE氏の各氏に師事。室内楽はN.ブレニン氏より多大な影響を受ける。G.ショルティの遺志で結成された“World Orchestra For Peace”に日本代表として参加、98年バーデン・バーデンにて首席奏者、00年ロンドンのBBCプロムスに出演。リサイタルのライブアルバムをALM Records(ALCD-9020)よりCDリリース。オーケストラ、室内楽、ソリストとして意欲的に活躍中。東京音楽大学講師、尚美ミュージックカレッジ専門学校講師。



古川原 裕仁 (ヴィオラ)

Hirohito FURUGAWARA Viola



国立音楽大学卒業。在学中、新日本フィルに入団。渡米し、川崎雅夫氏のもとで研鑽を積む。帰国後、新日本フィルを退団、以後、新日本・大阪・東京・神奈川・岡山・琉球・東京シティの各フィル、札幌・京都市・九州・静岡の各交響楽団等の客演首席をつとめている。洗足学園音楽大学でヴィオラ、室内楽、オーケストラを指導するかたわら、オーケストラトレーナーとして、東京女子医大、福井大、昭和大、獨協医大、富山大、全日本・関東・北日本それぞれの医科学生オーケストラ、中央フィルなど数多くを指導。指揮活動、アーティストのアルバム制作、TV・映画・CMのレコーディングやコンサートツアー等に多数出演。ヴァイオリンを諏訪晶子、ヴィオラを深井碩章、U.コッホ、白尾偕子、川崎雅夫、竹内晴夫各氏に師事。現在、新日本フィル団友、洗足学園音楽大学講師。



服部 奈々

(ヴァイオリン II)

Nana HATTORI Violin II

5歳から父の指導によりヴァイオリンを始め、東京音楽大学を首席で卒業。松本善三、田中千香士、前橋汀子、小国英樹の各氏に師事。東京文化会館主催推薦音楽会、読売新人演奏会に出演。第2回日本モーツァルト音楽コンクール入選。その後渡欧し、パーゼル音楽院大学院課程において、B.ラングヴァイン、A.オプレアンの各氏に師事。同大学院最優秀を得て修了後、パーゼル、チューリヒ、ベルリン、ザッセン、東京の各地でリサイタルを開催、好評を博す。現在、日本を拠点にオーケストラの客演首席奏者を務めるかたわら、アンサンブルリスコペルタの第1ヴァイオリン奏者としてCDをリリース。幅広い演奏活動を行っている。



林 一公 (チェロ)

Kazumasa HAYASHI Cello

桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業。1997年、読売日本交響楽団に入団。2002年にはアフィニス文化財団海外研修員としてドイツへ留学、バンベルクで研鑽を積む。これまでにチェロを長瀬冬嵐、松波恵子、マティアス・ランフトの各氏に、室内楽を北本秀樹、店村眞積、景山誠治、末吉保雄の各氏に師事。読響メンバーによる室内合奏団や室内楽、ソロでも活躍中。



樋口 誠 (コントラバス)

Makoto HIGUCHI Contrabass

広島県福山市出身。高校からコントラバスを始め、エリザベト音楽大学に聴講生として在籍。コントラバスを長谷川悟氏に師事。L.シュトライヒャー、F.ペトラッキ各氏のレッスンを受講。1992年新星日本交響楽団に入団し、同楽団とコンチェルトの共演や新曲の初演など多方面で活躍する。1999年、読売日本交響楽団に移籍、現在に至る。1996年と2003年、福山市にてソロリサイタルを開催。2018年、コントラバス4人によるアンサンブル(コントラバス四重奏)“La STELLA Quattro di bassi”でCDをリリース。同年、第49回福山音楽祭にてチェコ・フィルハーモニー弦楽四重奏団と共演。Biedermeier Salon Ensemble主宰。